

第5回（平成22年）
「大和郡山・金魚検定」

解 説

<分 野… 大和郡山>

<難易度… 上 級>



大和郡山・金魚検定認定委員会

問題1

【正 答】 ① 大刀形埴輪

【解 説】

小泉大塚古墳こいずみおおつかこふんからは銅鏡、鉄製の剣・刀子・斧、土師器壺が出土している。盗掘によって埋葬当時の状況は不明だが、銅鏡は少なくとも7面以上が副葬されていた。鏡には内行花文鏡、画文帯神獸鏡、二仙四獸帯鏡、獸首鏡があり、全て舶載品と考えられている。

①大刀形埴輪は西町の南方古墳なんぽうこふん出土。奈良県内では珍しい遺物。

なお、小泉大塚古墳からは埴輪が出土しておらず、当初から並べられていなかったと考えられている。



副葬品の出土状況

【文 献】

『島の山古墳調査概報 付. 小泉大塚古墳調査報告』学生社 1997

『第4回こおりやま歴史フォーラム 矢田丘陵周辺の古墳文化 - 郡山・斑鳩・平群の古墳を考える - 』大和郡山市教育委員会 1998

問題2

【正 答】 ③ 舎人

【解 説】

『古事記』序文に「時に舎人有りき。姓は稗田、名は阿禮、年は是れ廿八。人と爲り聰明にして、目に度れば口に誦み、耳に拂るれば心に勒しき。すなはち、阿禮に勅語して帝皇日繼及び先代舊辭を誦み習はしめたまひき。」とある。(天武天皇が阿礼に勅語し『帝皇日繼』と『先代旧辞』をよみ習わせたという内容。)

舎人は天皇・皇族・貴族に近侍して護衛や雑務にあたった下級官人。当初は地方豪族から朝廷に貢進されて中央の皇族などに近侍した。673年に大舎人おおとねりの制ができ、大舎人たいほかり以降、内舎人うちとねりや兵衛ひょうえなどに分化が進んだ。帳内と資人はその一種で、帳内は親王や内親王に、資人は皇族や貴族にそれぞれ位階や官職に応じて支給された。どちらも「とねり」とよむ場合がある。庶人は「しよにん」ともよみ、律令の用語としては位階や勲位をもたない者のこと。庶民や平民としての意味で用いられることも。

問題3

【正 答】 ① 羅城

【解 説】

古代の都城をとり囲んでいた城壁のことを羅城という。平城京がモデルとしたとされる中国の唐長安城には、都城全体を囲む壮大な城壁があり、東西南北各辺に城門が設けられた。平城京の羅城は、これまではっきりとした痕跡や遺構が確認されたことがなかったものの長安城のように四周を囲うものではなく、京の正面である南辺にのみ設けられていたと考えられていた。2005年、イオンモール大和郡山建設に先立つ発掘調査で問題にある遺構が検出され、これが羅城に該当する施設と考えられている。この遺構は京の中心である羅城門から東約530mの位置で途切れていることがわかっている。上部構造も不明。

中国にあるような土を突き固めてつくった城壁や、これまでに京内で検出されている築地塀とも大きく異なる構造であり、今後もその詳細について議論を重ねる必要がある。

現在イオンモール大和郡山敷地内には調査で検出した羅城をモチーフにしたモニュメントがある。

【文 献】

「平城京・下三橋遺跡の調査成果とその意義」『日本考古学』第25号 日本考古学協会 2008

『日中古代都城図録』奈良文化財研究所 2002



羅城をモチーフにしたモニュメント

問題4

【正 答】 ④ 西市の範囲や内部の構造は、発掘調査の成果から詳細に復元することができる。

【解 説】

発掘調査が部分的におこなわれていて建物や井戸などが確認されている。しかし、断片的な配置しかわからず、区画を示すような建造物の痕跡も確認されていない。西市推定地の周辺一帯は後世に粘土採掘場となったために奈良時代の遺跡が破壊されてしまっている場合が多いことも、考古学による大きな成果が得られにくい一因となっている。



西市推定地の調査でみつかった土探り穴

(この調査区では、手前を除いて奈良時代の遺跡全てが破壊されている。)

【文 献】

『平城京右京八条二坊五・六・十一・十四坪』大和郡山市教育委員会 2009

問題5

【正 答】 ① ^{えんまおういぞう} 閻魔王倚像

【解 説】

いわゆる「矢田寺」は中世以降、地蔵信仰に支えられ栄え今日にいたる。①～④の中では①が鎌倉時代の作。高さ54.3cmの小像。地獄の救済者としての地蔵信仰の確立と閻魔王とは密接な関連を持つこととなり、この認識は日本では鎌倉時代には広く浸透する。本像は通常よくみられる例と異なり、椅子に座り、口を開いた憤怒の表情をとらない珍しい像である。②地蔵菩薩立像は本寺の本尊で、高さ161.9cm。左手の宝珠ほうじゆは後世のもの。右手は一般的にみられる地蔵のように錫杖しやくじょうを持たず、胸の前で掌を前に向け親指と人指し指を捻じるもので特徴的である。袈裟けさ前面のU字形の衣文は平安時代初期に多くみられる。9～10世紀とされる。③阿弥陀如来坐像は高さ136.7cm。彫りが浅く、衣の襷が整う点は平安時代の如来に共通する特色。細い目の見ひらきによるおぼろな表情は12世紀前半頃の特徴とされる。④十一面観音立像は高さ216.7cm。脚部の衣文が平安時代前期に多くみられるもの。当初はこの像が本尊であった可能性が高い。技法や作風から8世紀後半の作とされる。②とともに桐材を用いる珍しい例。

【文 献】

『奈良県文化財図録Ⅶ 美術工芸編（彫刻 - 重要文化財Ⅰ - ）』奈良県教育委員会 1974

『矢田寺の仏像』奈良国立博物館 2001

問題6

【正 答】 ① ^{とうのみね} 多武峯の社殿を城内に遷座させた。

【解 説】

①は豊臣秀長による政策。遷座の強行後、秀長が病に倒れたこともあり、天正18年に帰山することとなる。現在も多武峯の祭神である藤原鎌足ふじわらのかまたりにちなんだ「大職冠たいしよくかん」という地名が残っている。（鎌足は死に臨んで当時の最高冠位である大織冠を授けられた。この冠位が与えられた例は他にないことから、大織冠は鎌足の代名詞となっている。）②は城下の商工の繁栄を目的に秀長が郡山城入部間もない天正13年におこない、一定の成果をあげた。③・④は郡山築城に関する政策で、③は筒井順慶によって天正9年に、④は秀長によって天正17年におこなわれた。

【文 献】

『大和郡山市史』大和郡山市役所 1966

問題7

【正 答】 ② ^{だいくまち} 大工町・^{さかんまち} 左官町

【解 説】

天正13年（1585）豊臣秀吉の弟、秀長は、百万石を領して郡山城に入り、商工業種別を基本とした箱本十三町という城下町の自治組織をつくった。箱本十三町の運営は十三町の当番制の自治で、当番の町は特許状の入った朱印箱を置き、「箱本」と染め抜いた小旗を立てて、1か月間全町の治安、消火、伝馬の世話をした。

箱本十三町

- | | |
|-----|-----|
| 綿町 | 柳町 |
| 紺屋町 | 茶町 |
| 本町 | 豆腐町 |
| 今井町 | 魚塩町 |
| 奈良町 | 材木町 |
| 塚町 | 雑穀町 |
| 蘭町 | |



『大和郡山 城下町ウォークマップ』

(大和郡山まちづくり会議)

問題8

【正 答】 ④ ^{まさのり} 正式

【解 説】

室町時代末（16世紀初め）山崎宗鑑・荒木田守武らによって正統文芸としての連歌から離れて、伝統ある詩歌の約束を破って、新しく自由な表現の世界を創出したのが俳諧である。従って当初は一種異端の文芸と見られたが、江戸時代に入り、京都に多面的教養を備えた歌人・松永貞徳が出て、用語・表現の調整を行い文芸的に面目を一新し、寛永年間（17世紀初め）には人びとに大いに歓迎され、俳諧中興の時代を迎えるに至った。大和郡山における俳諧の先駆者としては、貞門（松永貞徳の門下）の松江重頼撰の『毛吹草』（正保2年〈1645〉2月刊）に「郡山之住」として名が載せられている「正式」「岑松」2人の俳人ということになる。

【文 献】

『俳句の歴史 室町俳諧から戦後俳句まで』山下一海（朝日新聞社）

問題9

【正 答】 ④ 芭蕉ばしやう

【解 説】

化政期（文化・文政年間〈1804～29〉）において大和郡山の俳諧上注目されるのは良玄禅寺に建立された燕子庵後米仲社えんしあんごめいちゆうしやちゆう中の芭蕉時雨塚である。燕子庵後米仲ぎやうざんやすみつとは米徳即ち時の大和郡山城主柳澤堯山保光のことである。時雨塚は、その社中の俳人54人によって芭蕉の初時雨を詠んだ句を自然石に刻み建立したものである。碑の表には「けふ斗り人もとしよれ初時雨 はせを」と刻み、裏には燕子庵後米仲社中の54人の俳名を刻む。

【文 献】

「俳諧と郡山」（長田光男調査資料）



良玄禅寺の芭蕉時雨塚

（碑の表）

「けふ斗り人もとしよれ初時雨 はせを」



（碑の裏）

（燕子庵後米仲社中の54人の俳名）

問題10

【正 答】 ② 大地震

【解 説】

江戸時代、大和郡山は自然災害と飢饉、火災や流行病など多発の時代であった。領民は困窮し、年貢の引延ばしを願い出たり百姓一揆を起こしたり、打ちこわしを行ったりという事件もみられた。領民の苦難に追討ちをかけたのが、嘉永7年（安政元年）（1854）6月14日夜の大地震である。木津川断層を中心に起きた地震は、玉水付近でM=7.2。奈良と郡山付近でM=6.8、震度6であった。城内や町家の潰れが多で、圧死150人余。

薬園八幡神社境内に、危難を免れた木綿屋善七ら45人の町商人達の奉献した石灯籠が建つ。

【文 献】

「柳澤時代の郡山藩〈3〉災害と領内の人々」長田光男
（大和郡山市観光協会「第47回お城まつり」所収）



竿の刻銘



木綿屋善七ら45人の町商人達の名前

問題11

【正 答】 ②

【解 説】

郡山城は現在でも中心部分のみならず、外堀までその痕跡をよく残している。この絵図にある堀や地割は現在でも確認できる場所が少なくない。特に特徴的な部分はやはり城の中心部分の堀であり、この形状は現在もほぼそのまま残っている。また図の右上に描かれた山並み（西ノ京丘陵）や右下の大きく屈曲する川（秋篠川）もヒントになる。

問題12

【正 答】 ① 推古神社（額田部北町） ・ 大和屋伊兵衛

【解 説】

狛犬は、もともと宮中や高貴な人物の邸内に置かれて、そこを守護する意味あいをもっていたが、時代が下るにつれ、神社に置かれて守護獣の意味をもつようになった。江戸後期になると、「村中安全」「雨請願成就」「五穀豊穰」などの基壇の刻銘でわかるように村民の願いをこめた狛犬や石灯籠の奉献に変化していった。狛犬の多くは、大坂の石工の手になるものが多い。

作者と神社との関係などは次の表のとおり。

石工名	神社と鎮座地	紀年銘	組合わせ
堀内 八百村(現田原本町)	白坂神社 白土町	明和8年(1771)	獅子一対
松本伊兵衛 大和郡山	薬園八幡神社 材木町	天明元年(1781)	獅子・狛犬
	郡山八幡神社 柳4丁目	天明6年(1786)	獅子・狛犬
瓦久 矢田口	古田神社 満願寺町	文化2年(1805)	獅子・狛犬
五郎助 泉州	矢田坐久志玉比古神社 矢田町	文化11年(1814)	獅子・狛犬
大和屋伊兵衛 大坂	植槻八幡神社 植槻町	天保6年(1835)	獅子・狛犬
安兵衛 王寺郷	杵築神社 馬司町	弘化4年(1847)	獅子・狛犬
西川屋弥兵衛 大坂	杵築神社 椎木町東椎木	嘉永元年(1848)	獅子・狛犬
小島屋半兵衛 大坂西横堀	推古神社 額田部北町	嘉永元年(1848)	獅子・狛犬
	稲荷神社 矢田町通	嘉永6年(1853)	狛犬一対
杉屋和助 大坂東堀	風神社 下三橋町	文久2年(1862)	獅子・狛犬
	菅田比売神社 筒井町	慶応4年(1868)	獅子一対

【文 献】

- 『獅子・狛犬』（京都国立博物館）
- 『狛犬の研究』（奈良文化財同好会）
- 『大和の獅子・狛犬』長田光男著

問題13

【正 答】 ② 饒速日命 ・ 矢田坐久志玉比古神社

【解 説】

『日本書紀』…にぎはやひのみこと 饒速日命、あまのいわふね 天磐船に乗りて、おほぞら めぐり ゆ 太虚を翔行きて、こ くに おせ 是の郷を睨りて、あまくた 降りたまふに及至りて、いた 故、かれ 因りて目けて、「そら み やまと 虚空見つ日本の國」と曰ふ。

『旧事本紀』…にぎはやひのみこと 饒速日命、あまつかみみおや 天神御祖の詔を稟け、あまのいわふね 天磐船に乗りて、河内國の河上のたけるがみね 哮 峯に天降り坐し、即ち大倭國のあまのいわふね 鳥見の白庭山に遷り坐す。いわゆる天磐船に乗りて、大虚空を翔行り、この郷をおせ 巡り睨りて天降ります。すなわち虚空見つ日本國そら み やまとのくに というは是か。

『口碑伝説』…矢田は往古より白土の産地にして、全山到る所白土を出す故に白庭山と云ふ。饒速日命にぎはやひのみこと、天降ります時に、天神より天の羽々矢、天の羽々弓はふりを賜り祝て、三本の矢を射放ちて、其矢の落ちし所に宮居せんと。即ち此矢田に落ちたり。今に一の矢、二の矢、三の矢と云ふ字あざあり。二の矢は矢田坐久志玉比古神社境内地にして、御社号を一名矢落明神と云ふも之がためなり。

【文 献】

『日本書紀』上（岩波書店）

『先代旧事本紀』（吉川弘文館）

『女王卑弥呼の国』鳥越憲三郎（中央公論社）

問題 1 4

【正 答】 ② 金魚養殖

【解 説】

大和郡山における金魚養殖の由来は、享保9年（1724）に柳澤吉里よしさとが甲斐の国（山梨県）から大和郡山へ入部のときに始まると伝えられている。幕末の頃になると、藩士の副業として、明治維新後は、職禄を失った藩士やすのぶや農家の副業として盛んに行われるようになった。最後の大和郡山藩主柳沢保申の時に金魚の研究所としての性格を持った養殖場として使われた。

【資 料】

「67 ふるさとの思い出写真集・大和郡山」森田義一編

問題 1 5

【正 答】 ④ メリヤス加工業

【解 説】

大和郡山市では古くから栄えてきた地場産業にメリヤス加工業がある。なかでも戦前、戦後の大和郡山市の代表的な企業として現在のJR郡山駅の北側一帯8万4千㎡強の広大な敷地に大日本紡績郡山工場の工場群と付帯施設が建っていた。国内繊維産業の衰退もあり高度経済成長絶頂期の昭和39年に71年の歴史に幕を閉じたが、たちならぶ工場群は、郡山城や金魚池とともに郡山の象徴でもあった。

問題 16

【正 答】 ④ 忍者サノスケじいさん わくわく旅日記 金魚大じけんの巻

【解 説】

那須田稔著、阿倍肇絵で、静岡県の「ひくまの出版」から出版された。

創立30周年を記念して刊行している「忍者サノスケじいさん わくわく旅日記」の第23巻。忍者のサノスケじいさんが孫の一郎太と全国各地にいる忍者学校の同級生を訪ねるシリーズで、楽しく読める物語を通して家族のきずなや自然、命の尊さなどを伝えている。物語の中で子どもたちは、全国金魚すくい選手権大会にも出場している。



問題 17

【正 答】 ③ 35

【解 説】

毎年、市民の親睦をはかり、併せて地元商工業・観光業の発展に寄与することを目的に、大和郡山市商工会青年部が主催しており、花火大会や模擬店などのイベントを開催している。ホームページや、雑誌などでも第35回と広く広報している。

問題 18

【正 答】 ③ 柳町商店街

【解 説】

正式名称は「郡山柳町商店街協同組合」。現在、30数店舗が加盟・活動し「春のやなぎまち商店街まつり」やチャレンジショップのオープン、一店逸品運動等の活動を行っている。

問題 19

【正 答】 ② 5

【解 説】

第16回大会では大会への参加のために宿泊すると市内の「マークス W ホテル」、「サンホテル大和郡山」、「スーパーホテル大和郡山」、「ビジネスホテル大御門」、「料理旅館 尾川」の5箇所で特典が受けられるもので、大和郡山市のホームページや大会パンフレットでも紹介されている。

問題20

【正 答】 ③ 金魚

【解 説】

大和郡山市歌の3番の歌詞において『はぐくみし 金魚 メリヤス』と唱われている。大和郡山市のホームページでも歌詞と楽譜が紹介されている。

市歌

作詞：中川静村 作曲：川澄健一

青垣の 山のさみどり
白雲に 匂ふ 若草
新しき 生命 (いのち) をここに
咲きかおれ わがふるさとよ
ああ大和 大和郡山

傳えきし かたき信義と
人の和と 自治と 自由と
うるはしき 市政をここに
弥栄の わがふるさとよ
ああ大和 大和郡山

野と街と 綾にかがよい
はぐくみし 金魚 メリヤス
ゆたかなる 稔りをここに
生气あり わがふるさとよ
ああ大和 大和郡山

風雪を こえて 開きし
白梅の たかき 誇りぞ
光りある 文化をここに
栄えあれ わがふるさとよ
ああ大和 大和郡山